

ART CONFUSE に参加してみて

三浦裕美

連日猛暑が続く8月中頃、東京・北区で第二回となるART CONFUSE展が開催されました。この展示会は若者を中心に構成され、1ブースを2メートルとし、そのスペースをどのように使用してもオッケー。ジャンルもテーマも展示方法も自由なことが特徴です。CONFUSE（コンフューズ）とは、混沌という意味。それぞれが与えられた場所で好きに表現することで、枠にとられない個性が交差する発表の場となればという意味が込められているように思います。

そうした趣旨を表わすように、集まった作品は水彩・アクリル・油彩・版画・インスタレーションなど様々で、前回に比べ平面作品が中心なもの、テーマや表現したいものに対するアプローチの仕方も三者三様です。イラストレーションなどのメディアを背景に持つ表現と、絵によるタブローの対比は民美卒業生の

私に印象的に映りました。

また、出品者たちの創作活動についての考え方も異なります。積極的に作品を販売していこうという姿勢を持つ人や、あくまで作品を展示し見てもらうことを目的とした人、自らの発信した表現がどのような反応を起すのかを試す実験の場と考える人。そうした一様ではない考え方がひとつの会場に集まったことも、このまとめようにもまとめ切れない不思議な空間を作り出した一因なのだと思います。

会期中には交流会がおこなわれ、創作をしているという以外一見接点のなさそうな出品者同士が言葉を交わす機会となり、さらに親睦を深めることができたように思います。民美の仲間やそのつながりに頼ってばかりの私にとっても、多様な考えに触れる貴重な機会でした。それぞれまったく違うバックグラウンドを持つ人たちと話すことで、制作や発表に対して消極的な自分を改めて自覚することができ、新たな発見や刺激につながりました。

いくつもの課題を見つめつつ、こうした既存の枠からはみだすような作品が生みだされる場合は、今後若い表現者にとって必要だと感じました。

